

山口大学を来訪

ホルル、カウアイ山口県人会

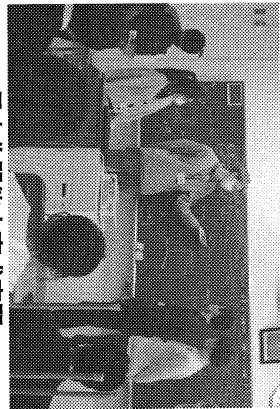
在ハワイホルル山口県人会からグレイル、ワカタケ会長、及びカウアイ山口県人会からシエリル・シントニ会長をはじめとする総勢12名が8月29日、山口大学吉田キャンパスを訪問した。同訪問は、8月27日に行われた同県とハワイ州の姉妹提携結締印式の出席のために同県を訪問したことに伴うものだ。

午前中は、教育学部附属山口小学校で児童と文化交流を行い、午後には吉田キャンパスに移動。最初に、石井理国際連携担当副学長が歓迎の挨拶を述べた後、キャンパスツアーを実施した。ツアーでは、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)に交換留学をしている国際総合科学部3年の山口紗永さんがガイドを担当した。ツアーでは、ハワイ

イのお土産で有名な「ハワイアンホースト」の創始者が、同大教育学部前身の師範学校の卒業生であることを紹介し、加えて植物工場、及び農学部附属農場を見学した。

ツアー終了後は、図書館で交流イベントを実施。第1部では、国際総合科学部の杉井学教授がハワイ移民に関する研究紹介を行った。第2部では、シエリル会長が、カウアイ山口県人会と同大の連携について紹介。同大はカウアイ山口県人会と平成30年9月に連携協定を締結しており、同大學生がKCCへ留学した際には様々なサポートの提供を受けている。その後、同大KCCの国際交換留学プログラムに参加學生が、KCCでの留学体験、及び同大での留学体験をそれぞれ報告した。

最後は、8月にKCCでの交換留学を開始した2名の學生が、同様に現地ハワイからオンラインで近況を報告した。



異文化間能力育成実習

学生が考案して実践するとしても、高校生から実践するに、高校生から異文化間能力育成実習は日本文化紹介があり、吉舎の街歩きでは高校

生から町の歴史と文化を学んだ。

留學生にとって地域の住民に温かく迎えられる心温まる体験となった。

「グローバルインスタンディングI：日本社会における異文化間能力」「グローバルインスタンディングII：日本の地域社会と協働する異文化間実習」「日本社会とジェンダー」を愛護している広島大学短期交換留学プログラム(HU SJA)留學生と総合科学部国際共創学科の學生らが10月29日、広島県立日影館高校と共同で異文化間能力研修及び「吉舎おもてなしプラン国際教育交流」を行った。

への参加は、「おもてなし国際教育交流」への参加は、今週で8回目。日影館高校生147人と教職員17人、吉舎中学校生徒9人、地域のホストファミリー、同大學生35人の約200人が参加する大規模な国際教育交流となった。

国際教育交流では、スペインとイギリスからの留學生によるスピーチによる自己紹介、異文化間理解グループワークを行い、英語と日本語による司会で留學生と地域住民をつなぎ、新しい異文化体験の場を作った。各教室では、世界の留學生と高校生をつなぐアクティビティを留學生が考案して実践するとしても、高校生から実践するに、高校生から異文化間能力育成実習は日本文化紹介があり、吉舎の街歩きでは高校

国際教育交流・異文化間研修

広島大、學生・留學生

山口大、成果報告会

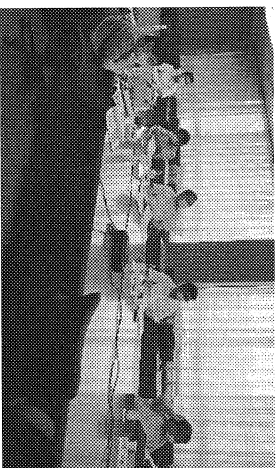
研究拠点群形成プロジェクト

山口大学は7月14日、同大の事務局特別会議室で、「研究拠点群形成プロジェクト」の2021年度成果報告会を開催した。報告会には、谷澤幸生学長、上西研学術研担当副学長ほか教職員20名が参加した。

同プロジェクトは、平成22年度から研究の活性化を目指して実施してきた「呼び水プロジェクト」を、平成26年度から研究センター「型」として発展させ、平成29年度からは「研究拠点群形成プロジェクト」を、平成29年度から「研究拠点群形成プロジェクト」として学内公募してきているのだ。

従来であれば、広く学内へ聴講を呼びかけ、開催するところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続き聴講者を限定して開催となった。

昨年度末で、採択後5年を経過した3件のプロジェクト(平成29年度採択)及び、3年を経過した2件のプロジェクト(令和元年度採択)代表者から、プロジェクトの組織構成、この1年の活動状況や研究成果らびに今後の活動計画などの発表があった。学長、副学長及び審査員等から多くの質疑応答が行われ、盛況のうち



成果発表の様子

1年の活動状況や研究成果らびに今後の活動計画などの発表があった。学長、副学長及び審査員等から多くの質疑応答が行われ、盛況のうち



石野君身に入ります。関心の高さが伺えます。